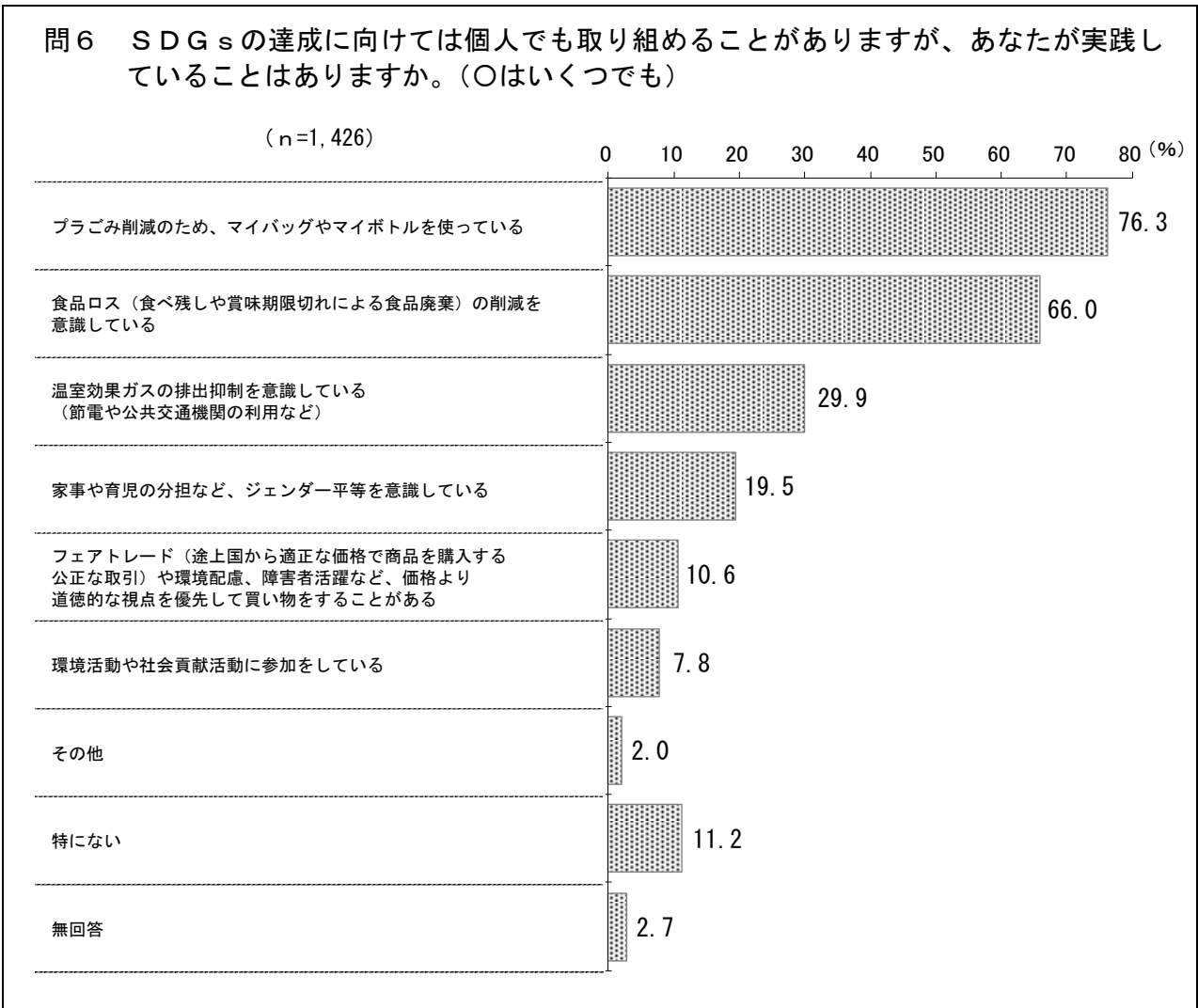


(3) SDGsの達成に向けて実践していること



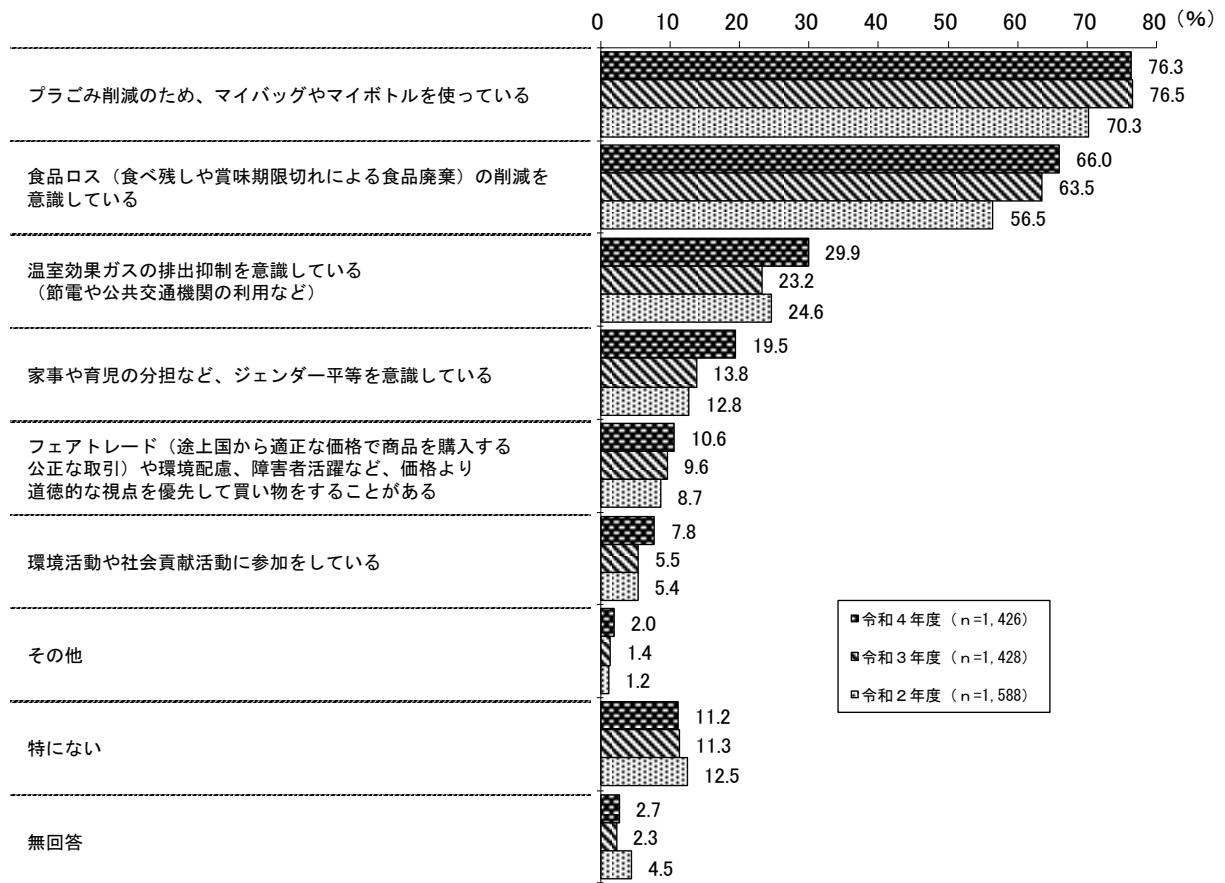
SDGsの達成に向けて実践していることをたずねたところ、「プラゴミ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」(76.3%)が7割半ばを超えて最も高く、次いで、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」(66.0%)、「温室効果ガスの排出抑制を意識している（節電や公共交通機関の利用など）」(29.9%)、「家事や育児の分担など、ジェンダー平等を意識している」(19.5%)と続いている。

<経年比較>

過去の調査結果と比較すると、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」は令和3年度より2.5ポイント増加している。

「温室ガスの排出抑制を意識している」は令和3年度より6.7ポイント増加している。

「家事や育児の分担など、ジェンダー平等を意識している」は令和3年度より5.7ポイント増加している。



※「フェアトレード（途上国から適正な価格で商品を購入する公正な取引）や環境配慮、障害者活躍など、価格より道徳的な視点を優先して買い物をすることがある」は、令和2年度では「フェアトレードや環境配慮、障害者活躍など、価格より道徳的な視点を優先して買い物をすることがある」となっていた。

<性別・性／年齢別・区別結果>

性別で見ると、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」で24.4ポイント、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」で11.9ポイント、それぞれ女性が男性より高くなっている。

性／年齢別で見ると、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」は女性60～69歳で9割に近く、高くなっている。

区別で見ると、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」全ての区で3割半ばと高くなっている。

